

【新改訳 2017】

ヨハ

13:12 イエスは彼らの足を洗うと、上着を着て再び席に着き、彼らに言われた。「わたしがあなたがたに何をしたのか分かりますか。

13:13 あなたがたはわたしを『先生』とか『主』とか呼んでいます。そう言うのは正しいことです。そのとおりなのですから。

13:14 主であり、師であるこのわたしが、あなたがたの足を洗ったのであれば、あなたがたもまた、互いに足を洗い合わなければなりません。

13:15 わたしがあなたがたにしたとおりに、あなたがたもするようにと、あなたがたに模範を示したのです。

13:16 まことに、まことに、あなたがたに言います。しもべは主人にまさらず、遣わされた者は遣わした者にまさりません。

13:17 これらのことが分かっているなら、そして、それを行うなら、あなたがたは幸いです。

13:18 わたしは、あなたがたすべてについて言っているではありません。わたしは、自分が選んだ者たちを知っています。けれども、聖書に『わたしのパンを食べている者が、わたしに向かって、かかとを上げます』と書いてあることは成就するのです。

13:19 事が起こる前に、今からあなたがたに言っておきます。起こったときに、わたしが『わたしはある』であることを、あなたがたが信じるためです。

13:20 まことに、まことに、あなたがたに言います。わたしが遣わす者を受け入れる者は、



わたしを受け入れるのです。そして、わたしを受け入れる者は、わたしを遣わされた方を受け入れるのです。」

イエス様は奴隷の仕事である”洗足”を行って、模範を示されました。「互いに足を洗い合うべきです」というのは、互いに相手のしもべとなって仕えるべきだということです。これはクリスチャンの人間関係の基本であり、教会のあるべき姿です。仕えてもらう者は世の中では偉い人のようですが、神の国では逆なのです。

もしも仕えることが嫌ならば、その人はイエス様よりもまさった者になってしまいます。「しもべはその主人にまさるものではない」のですから、私たちがイエス様よりもまさったものになってしまうのは、当然おかしい話なのです。世の偉い人のようにお世話してもらうことを嬉しく思うよりも、仕えることを誇りとしましょう。

その価値観を理解できなかったのはユダです。彼はイエス様が王のように力で支配しなかったことに、失望してイエス様に向かって「かかとを上げた」のでした。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

